

2023年度 決算説明会 議事録

2024年4月25日（木）作成

JFEシステムズ株式会社

【決算ハイライト】

① 2023年度連結決算（カッコ内は2022年度比）

・売上高=62,033百万円(+9.8%)、経常利益=7,452百万円(+18.6%)

→全ての事業が順調に推移し、過去最高の売上高・利益を更新。

特に利益面では、粗利改善効果もあり、より高い利益率を確保。

② 2024年度連結見通し（カッコ内は2023年度比）

・売上高=62,130百万円(+0.2%)、経常利益=6,700百万円(△10.1%)

→売上高は高い水準を維持する見通し。経常利益は処遇改善や知名度向上施策への取組み費用を見込み、減益の見通し。

③ 配当

・2023年度は、中期経営計画の配当方針である「配当性向35%目途」に設立40周年記念配当を加えた、121円/株・年間を予定。[前回公表値118円から+3円増配]

・2024年度は上記配当方針に沿って、102円/株・年間[中間51円、期末51円]を予想。

④ トピックス

・DX・ソリューション事業強化に向けた機構改革（ソリューション・プロダクト事業本部）

→事業企画推進部の新設：事業本部内の複数の製品等を組み合わせたクロスセルの企画等
デジタル製造事業部の新設：DX推進部・SCM開発部門を母体とした事業部で、製造業のデジタル化を推進

・事業拡大に伴う本社増床

→成増（板橋区）オフィスでの事業拡大に伴う増員および新卒採用の増員への対応として、本社ビル（シーバンスS館）オフィスの増床を予定。増員対応とともに、拠点集約による業務効率・生産性向上を指向。

・SAP AWARD OF EXCELLENCE 2024 受賞

→JFEスチールグループ会社80社以上が共通利用する諸システムを「短納期」「ノントラブル」でオンプレミスから、クラウドへアップグレード。JFEグループのDX戦略を支える基盤をSAP社のクラウドサービスで構築したことが高く評価された。

【質疑応答要旨】

Q1：利益について、2024年度見通しは、2023年度実績よりも低下する見通しとのことだが、2025年度以降の利益水準は、大きな方向性として、どう推移すると考えているか。

A1： 本年度に 2025 年度からの次期中期経営計画を策定するため、現時点で説明できることは限られているが、利益への影響として、プラス・マイナス、両方の要因があると考えている。
マイナスの要因としては、①鉄鋼部門における製鉄所システムリフレッシュの減少、②従業員並びにビジネスパートナー様の処遇改善に伴うコストアップ影響が挙げられる。
一方で、プラスの要因として、①製鉄所システムリフレッシュの完了とともに増加が期待される DX・GX 関連投資があり、本分野に対する人的資本のシフト、②SCM を始めとする高付加価値の事業の伸長、③従来から進めている生産性・業務効率を上げることによる収益性の向上、④リスクマネジメントの強化による品質確保や不採算の抑制、⑤約 200 億円の手元キャッシュを活用した M&A、アライアンス戦略が挙げられる。これらにより、先の 2 つのマイナス要因をカバーし、更なる事業・収益拡大を実現していきたい。そのためにも人的資本への投資を継続し、技術習得やスキル向上、リスクリングなどを進めていく。

Q2： 2022 年度から 2023 年度の増収について、一般顧客部門及び基盤事業部門において具体的にどのような領域が伸びたのか。

A2： 一般顧客部門では、特にソリューション事業において、①SCM 領域における需要予測やシミュレーションを実現する当社のソリューションが、半導体や自動車といった活況な業界において堅調に需要を伸ばしたこと、加えて②人事給与や原価管理も堅調に伸びた。さらに、基盤事業では、製造業を中心に業務 IT 基盤構築需要が旺盛だった。

Q3： 製鉄所システムリフレッシュの減少と DX・GX の新規需要の規模とのバランス、推移をどう見ているか。

A3： 製鉄所システムリフレッシュの規模は大きく、これに見合う規模の DX・GX 関連ビジネスが期待できるかどうかという点については、現時点では解らないが、注視している。次期中期経営計画策定のなかで親会社とも意見交換しながらしっかりと見極め対応していく。

以上